

《シンフォニア、変ホ長調》(1809年)¹ 水谷 彰良

シンフォニア、変ホ長調 *Sinfonia in Mi b maggiore*

作曲 1809年、ボローニャ

初演 1809年8月25日ボローニャ、リチェーオ・フィラルモーニコ (Liceo filarmonico)

編成 管弦楽 (1フルート、2オーボエ、2クラリネット、1ファゴット、2ホルン、弦楽5部)

演奏時間 約5分半

自筆楽譜 未発見または消失。重要な筆写譜がボローニャの市立音楽図書館に所蔵 (Bologna, Civico Museo Bibliografico Musicale, TT [Alunni] XXIV secondo/2-52 及び secondo/ 1) [パート譜と総譜]。

初版楽譜 下記全集版

現行版 下記全集版

全集版 VI / 1 (Paolo Fabbri 校訂, Fondazione Rossini, Pesaro, 1998.)

構成 変ホ長調、4/4拍子、アンダンテ・マエストーゾ〜2/4拍子、アレグロ・ヴィヴァーチェ

解説

1809年にボローニャのリチェーオ・フィラルモーニコ学年終了試験のために作曲し、同年8月25日に同校で初演したシンフォニア。《結婚手形》(1810年)序曲の原曲に該当するが、自筆楽譜の存在は確認されず、前記ボローニャ所蔵の筆写譜のみが典拠となる(タイトル記載は、「Sinfonia / del Sig.r Gioachino Rossini / composta l'anno 1809 per gli esperimenti al Liceo / e l'anno appresso dall'A. applicata alla sua / prima opera La Cambiale di matrimonio」)。

序奏部(変ホ長調、4/4拍子、アンダンテ・マエストーゾ)と主部(変ホ長調、2/4拍子、アレグロ・ヴィヴァーチェ)からなり、音楽は明らかにこれ以前のシンフォニアよりも洗練されている(とりわけアレグロ主部の第二主題、それを受けてのホルン独奏と木管楽器の応答)。冒頭の総奏はモーツァルトの《魔笛》序曲を意識した可能性があり、後年ロッシェーニは、学生時代に《魔笛》の序曲を知って同じような曲を作ろうとしたがうまくいかなかった、と述べている(ヒラーへの述懐。Ferdinand Hiller., *Plaudereien mit Rossini*, 1855年)。

推薦ディスク：

・ Christian Benda 指揮プラハ・シンフォニア管弦楽団 (2012年5月録音 Naxos 8.572735)

註：使用エディションに関する記載はないが、全集版を使わなければ演奏しえない。



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシェーニ全作品事典(25)ロッシェーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。